2026年度 中間期

決算資料

Consolidated Financial Results

2026年11月6日

株式会社TBSホールディングス

中間期　サマリー

TBS

2026年度　中間期決算

- 連結全体では、**増収減益**。中間期の売上高としては、過去最高。
- メディア・コンテンツ事業は、**増収減益**。
  国内外の経済環境の先行き不透明感に伴う広告市況軟調の影響等によりTBSテレビでスポット収入が減少した一方、
  THE SEVENの本格稼働に伴う大型作品の納品等により、**増収**。 利益面では、スポット収入減少の影響が大きく、**減益**。
- ライフスタイル事業は、**増収減益**。
  スタイリングライフグループは、中核のPLAZAによる新規出店効果や新規事業の連結等で**増収**。
  利益面では、BCLでの主力商品「サボリーノ」の販売苦戦や、PLAZAでの固定費増加等により、**減益**。
  やる気スイッチグループは、授業料収入等の増加により**増収**となったものの、フランチャイズ教室の直営化に伴う人件費等の増加が影響し、**減益**。
- 不動産・その他事業は、**増収増益**。

2026年度　連結業績見通し

- 連結業績予想は、2026年8月6日発表の業績予想修正より変更なし。

規律ある資本コントロールの進捗（自己株式取得と消却）

- 2026年5月14日、**650万株**、**360億円**を上限とする自己株式取得（取得期間2026年5月15日～2027年2月26日）を発表
- 2026年5月29日、**450万株**を消却
- 2026年6月17日、自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）により、**2,739,600株**取得
- 2026年10月末時点、取得した株式の総数 **4,732,800株**、取得価額の総額 **28,821,019,700円**

目次

2026年度　中間期決算ハイライト
2026年度　業績見通し
経営計画の進捗
その他トピックス
参考資料

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、
記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境等の変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先　〒107-8006
東京都港区赤坂5丁目3番6号　Tel：03-3746-1111（代表）
株式会社TBSホールディングス　総務局コーポレートガバナンス部IR室
HP：https://www.tbsholdings.co.jp/ir/

▶2026年度　中間期決算ハイライト

2026年度　業績見通し

経営計画の進捗

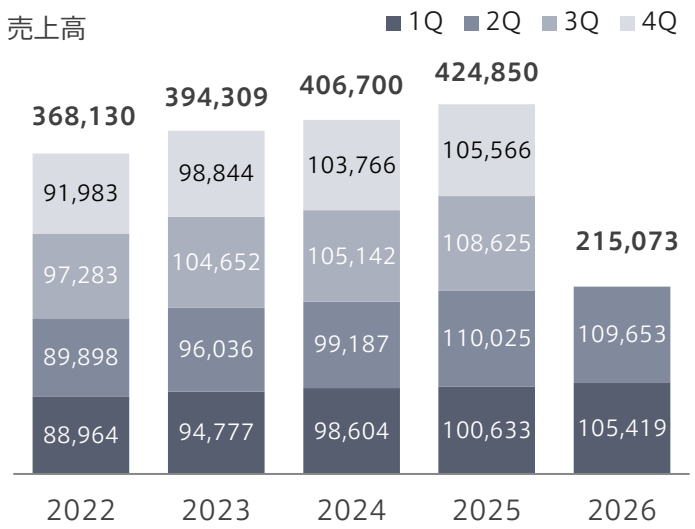
その他トピックス

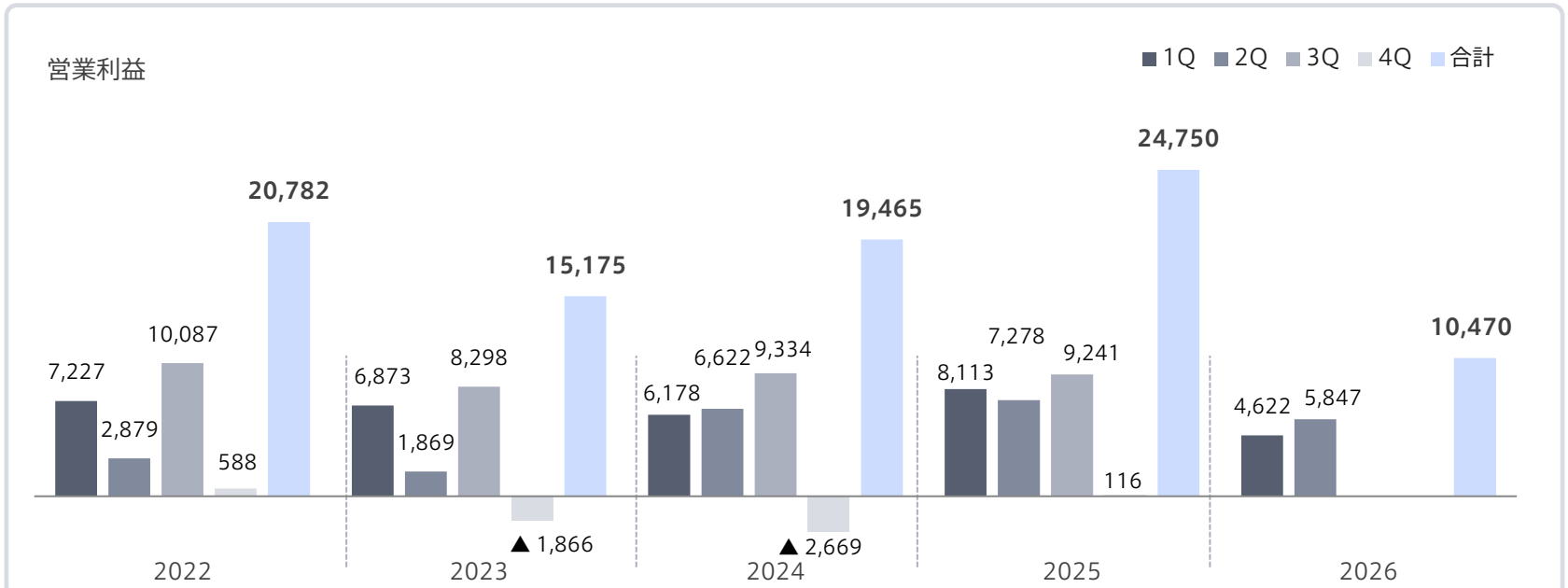
参考資料

連結損益計算書

単位：百万円

連結	2025年度 中間期	2026年度 中間期	前年差	増減率
売上高	210,658	**215,073**	+4,415	+2.1%
営業利益	15,392	**10,470**	▲4,921	▲32.0%
経常利益	22,885	**18,687**	▲4,198	▲18.3%
親会社株主に帰属する中間純利益	45,403	**17,666**	▲27,737	▲61.1%





連結セグメント別　実績

単位：百万円

	外部売上				営業利益				
	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差	増減率	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差	増減率	2025年度 中間期(※)
メディア・コンテンツ	155,088	**157,682**	+2,593	+1.7%	9,674	**4,193**	▲5,480	▲56.7%	7,981
ライフスタイル	47,111	**48,704**	+1,592	+3.4%	1,684	**552**	▲1,131	▲67.2%	1,684
不動産・その他	8,457	**8,686**	+228	+2.7%	4,034	**5,724**	+1,690	+41.9%	5,727
調整額	-	**-**	-	-	▲0	**▲0**	+0	-	▲0
連結	210,658	**215,073**	+4,415	+2.1%	15,392	**10,470**	▲4,921	▲32.0%	15,392

(※)セグメント別の2025年度実績を、TBS放送センターを移管したと仮定して算出（推定値）

単位：百万円

主な増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	THE SEVEN+6,073　WACUL+724 TBSテレビ▲4,306	TBSグロウディア+831 TBSテレビ▲4,415　TBSスパークル▲817　TBSアクト▲384
ライフスタイル	スタイリングライフグループ+1,149 やる気スイッチグループ+443	スタイリングライフグループ▲901 やる気スイッチグループ▲230
不動産・その他	TBS HD+162	TBS HD+1,948

TBSテレビ　損益計算書

有料配信や催事・興行が増収したものの、国内外の経済環境の先行き不透明感に伴う広告市況軟調の影響等によりスポット収入が大幅に減少し**減収**。
営業利益は、 利益率の高いスポットの大幅減収の影響、そして放送センター移管に伴う損益の悪化等で**減益**。

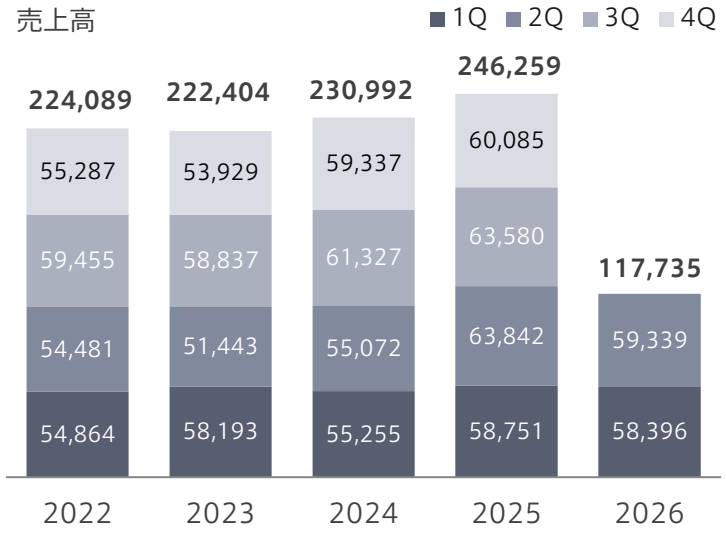
TBSテレビ	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差	増減率
売上高	122,593	**117,735**	▲4,857	▲4.0%
営業利益	10,070	**4,746**	▲5,323	▲52.9%
経常利益	11,142	**6,323**	▲4,819	▲43.3%
中間純利益	35,217	**7,768**	▲27,448	▲77.9%

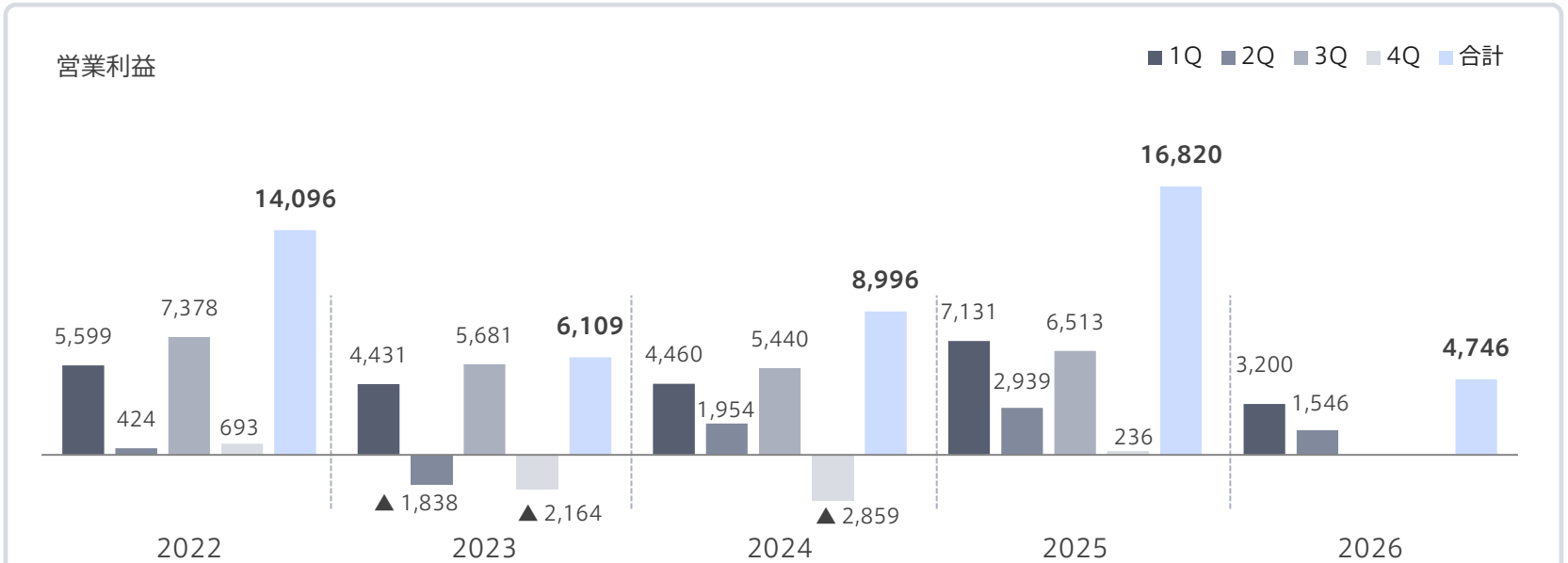
単位:
百万円

営業費用など

- 番組原価 ▲2,713
- 代理店手数料 ▲2,138(当期14,940)
- ネットワーク費 +59
- その他テレビ部門・配信部門原価（決算処理含む） +2,381
- 事業部門営業費用 +1,014
- 放送センター移管に伴う費用増 +775

- 特別利益（投資有価証券売却益） 当期 5,730
- 特別損失（事業整理損） 当期 900





TBSテレビ　収入内訳

単位：百万円

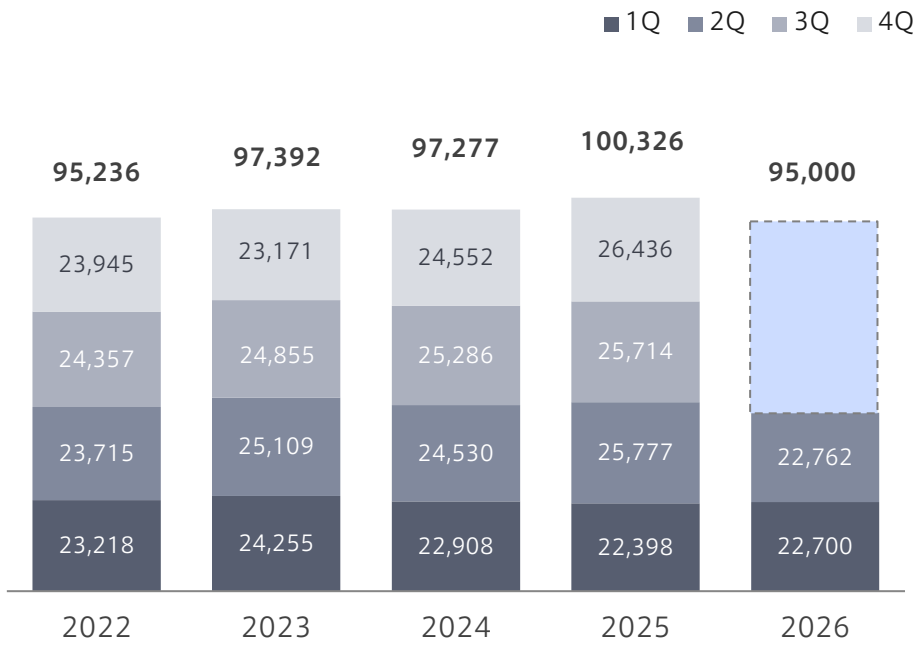
	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差	増減率	コメント
テレビ	111,681	**104,517**	▲7,163	▲6.4%	有料配信が好調な中、放送収入の減少により**減収**。
タイム	46,086	**43,481**	▲2,605	▲5.7%	視聴率は堅調も、大型スポーツ単発の規模差により**減収**。
スポット	41,310	**35,574**	▲5,736	▲13.9%	国内外の経済環境の先行き不透明感に伴う広告市況軟調の影響等で**減収**。
配信広告	6,322	**6,381**	+59	+0.9%	「VIVANT」等による好調な再生回数を背景に、運用型収入が増加し**増収**。
有料配信	5,331	**7,031**	+1,699	+31.9%	Netflixシリーズ「九条の大罪」（製作著作TBSテレビ）の海外配信や、U-NEXT等での国内有料配信好調により**増収**。
その他	12,629	**12,048**	▲580	▲4.6%	-
事業	9,716	**12,702**	+2,985	+30.7%	「ピクサーの世界展」の大ヒットに加えて、アニメの海外販売等二次利用収入の増加等により**増収**。
不動産	1,195	**515**	▲680	▲56.9%	TBSテレビからTBS HDへの放送センター移管の影響により**減収**。
収入合計	122,593	**117,735**	▲4,857	▲4.0%	事業部門が増収したものの、テレビ部門の放送収入の減少等で**減収**。

テレビ番組原価（制作費）

	2025年度	**2026年度**	前年差
第１四半期	22,398	**22,700**	+302
第２四半期	25,777	**22,762**	▲3,015
上期合計	48,175	**45,462**	▲2,713
第３四半期	25,714	-	-
第４四半期	26,436	-	-
下期合計	52,151	-	-
通期累計	100,326	**95,000**	▲5,326

単位:
百万円

※青枠内の通期累計は、見込みです。



TBSテレビ　事業部門収益

単位：百万円

部門	売上高			粗利益			主な増減要因
	2025年度中間期	**2026年度中間期**	前年差	2025年度中間期	**2026年度中間期**	前年差	
アニメ	1,628	**2,246**	+618	▲442	**1,175**	+1,618	「氷の城壁」等の海外配信の好調により**増収**。地上波放送アニメ制作費の費用配分の適正化等による影響で、**増益**。
映画	2,845	**1,764**	▲1,080	1,293	**1,046**	▲247	映画「TOKYO MER」シリーズの配信セールスが好調も、「TOKYO MER～走る緊急救命室～CAPITAL CRISIS」が公開延期となる中、前年大ヒットした「TOKYO MER~走る緊急救命室~南海ミッション」の反動等により**減収減益**。
ライブエンタテインメント	3,392	**6,237**	+2,844	131	**632**	+500	「ピクサーの世界展」の大ヒットに加え、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の券売好調もあり、**増収増益**。
コンテンツビジネス	357	**399**	+42	293	**289**	▲3	「VIVANT」関連等グッズ販売好調により**増収**。利益は、海外商談会の出展等費用増で、**減益**。
グローバルビジネス	1,493	**1,614**	+121	688	**669**	▲18	「NINJA WARRIOR」関連の収入増加等により**増収**も、IP事業の一部がミュージック・エンタテインメントに移管した影響で**減益**。
ミュージック・エンタテインメント(※)	-	**439**	+439	-	**224**	+224	「CDTVライブ！ライブ！秋の大感謝祭2026」に加え、音楽映像クリップを販売。
その他営業費用				▲824	**▲926**	▲102	
部門計	9,716	**12,702**	+2,985	1,139	**3,111**	+1,971	事業部門全体では、**増収増益**。

(※)「ミュージック・エンタテインメント」を2026年度より新設。
主に「ライブエンタテインメント」から「CDTVライブ!ライブ!大感謝祭」等の音楽フェスが移管し、「グローバルビジネス」から「STARGLOW」等音楽関連のIP事業が移管。
なお、2025年度中間期実績については、遡及して組み替えておりません。

メディア・コンテンツセグメントの主なグループ会社状況

単位：百万円

	売上高			営業利益			主な増減要因
	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差	
TBSラジオ	4,077	**4,077**	▲0	40	**▲18**	▲59	売上高は、イベント収入、デジタル音声収入が堅調に推移し**前年並み**。営業利益は、利益率の高い放送収入の減少により**減益**。
BS-TBS	8,363	**8,248**	▲115	1,507	**1,593**	+85	単発番組のタイム収入と制作費が両建てで減少の中、ショッピングの伸長で**減収増益**。
TBSグロウディア	14,423	**15,718**	+1,294	196	**1,028**	+831	「VIVANT」関連商品の販売好調やショッピング収入の増加、「超危険生物展」等イベント好調により、**増収増益**。
日音	4,745	**4,668**	▲76	438	**476**	+38	邦楽収入の増加も、業務代行収入の減少等により**減収**。営業利益は、費用減少により**増益**。

スタイリングライフグループ

PLAZAは、新規出店効果で**増収**。但し、新基幹システムはじめ固定費等の増加が上回り、**減益**。
BCLは、「乾燥さん」は伸長したものの、「サボリーノ」の売上減少や在庫評価減等が響き、**減収減益**。
グループ全体では、ビコーズの損益取込やCath Kidstonほか新規事業領域が**増収**に貢献したものの、主力事業の苦戦により、**減益**。

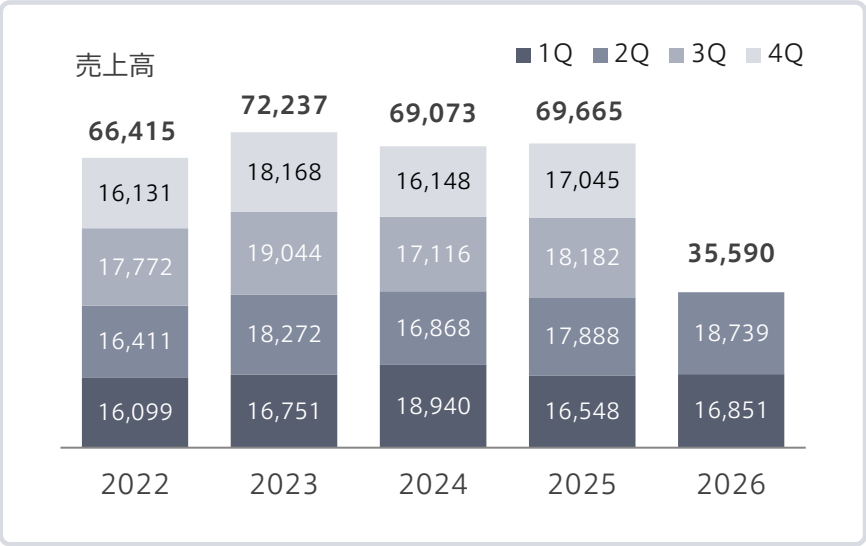
単位:
百万円

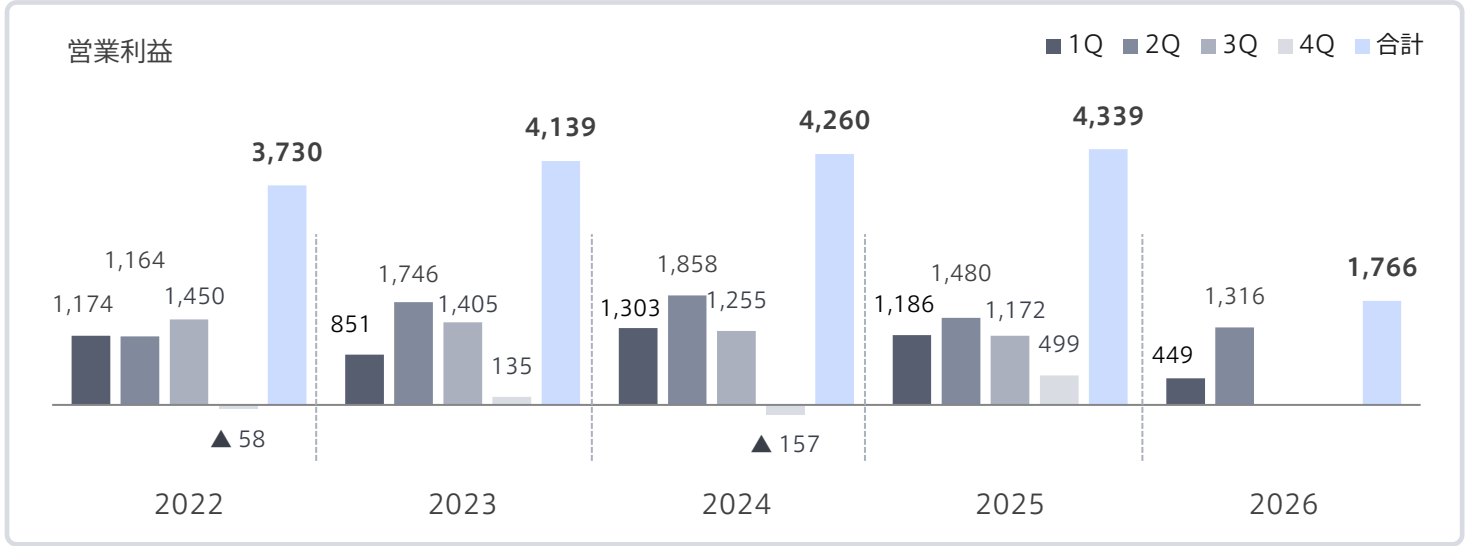
連結	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差
売上高	34,437	**35,590**	+1,153
営業利益	2,667	**1,766**	▲901

単位:
百万円

会社別	売上高※1		
	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差
PLAZA	24,313	**24,408**	+94
BCL・ CPコスメティクス	9,797	**9,260**	▲536
本社およびその他※2	325	**1,921**	+1,595
計	34,437	**35,590**	+1,153

※1 事業別の売上高は管理会計上の数値。　※2 本社およびその他には、ビコーズおよびCath Kidstonほか新規事業領域の売上を含む。





やる気スイッチグループ

やる気スイッチグループは 国際会計基準（以下、IFRS）を適用しており、
連結上ではIFRSを日本基準に組み替えた上で、26年3月～26年8月の6か月分を取り込んでいます。

TBS

売上収益は、生徒数が減少したものの、バイリンガル幼児園等の高単価ブランドにおける直営比率の上昇に伴い授業料収入等が増加し、**増収**。
利益面では、フランチャイズ教室の直営化等に伴う人件費や減価償却費等、費用の増加が上回り、**減益**。

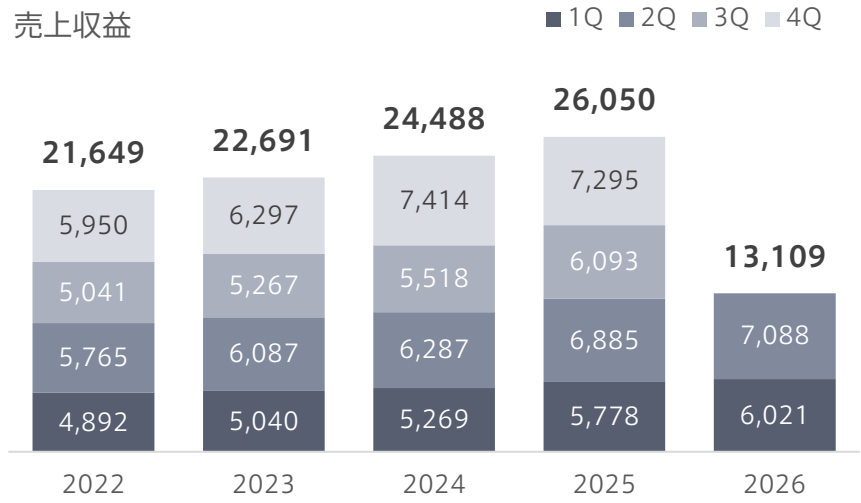
単位：百万円

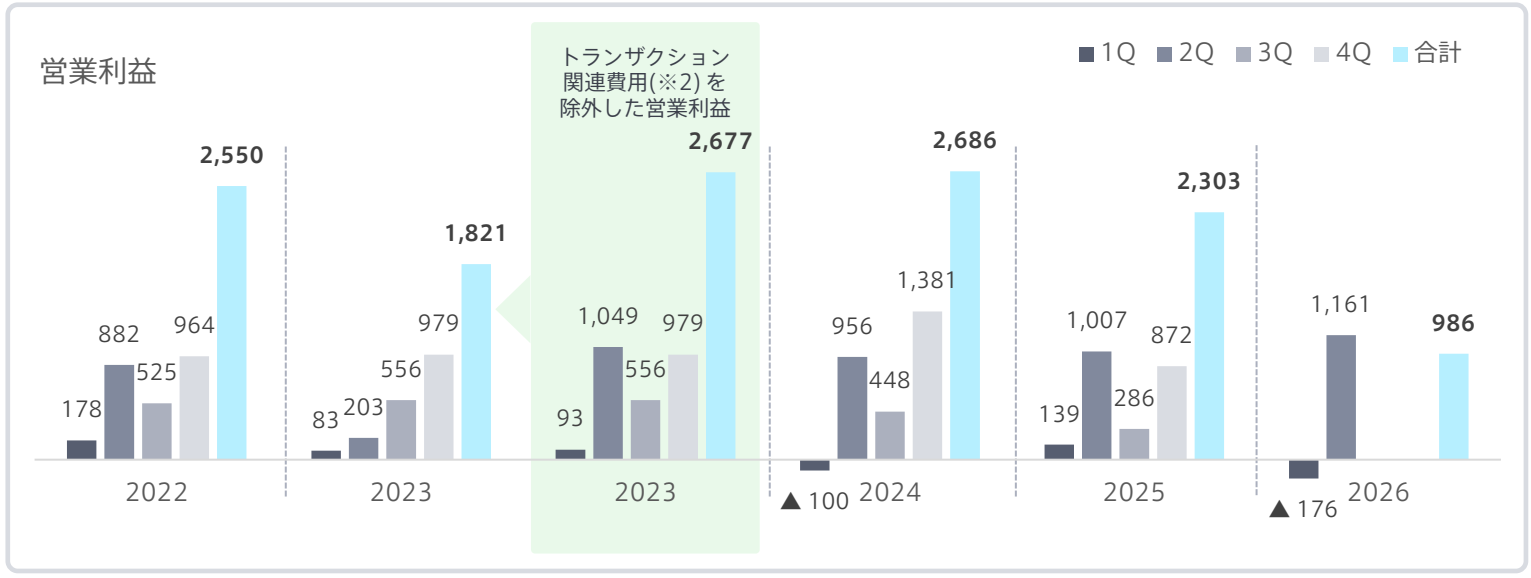
連結	2025年度 中間期（3-8月）	**2026年度 中間期（3-8月）**	前年差
売上収益	12,662	**13,109**	+447
営業利益	1,145	**986**	▲160

単位：百万円

事業別	売上収益 ※1		
	2025年度 中間期（3-8月）	**2026年度 中間期（3-8月）**	前年差
個別指導塾事業	5,511	**5,440**	▲71
幼児教育他事業	7,151	**7,669**	+518
計	12,662	**13,109**	+447

※1 事業別の売上収益は管理会計上の数値。





※2 やる気スイッチグループがTBSグループ入りに伴い発生した費用 (IFRS) を指し、連結上では日本基準に組み替えて 一部を特別損失に計上。

2026年度　中間期決算ハイライト

▶2026年度　業績見通し

経営計画の進捗

その他トピックス

参考資料

2026年度　連結業績予想　修正なし

TBS

連結業績予想は、2026年8月6日発表の業績予想修正より変更なし。

単位：百万円

連結	2025年度 実績	2026年度 予想 (8/6発表)	前年差
売上高	424,850	**435,000**	+10,149
営業利益	24,750	**23,000**	▲1,750
経常利益	37,373	**38,000**	+626
親会社株主に帰属する当期純利益	52,228	**48,500**	▲3,728

単位：百万円

セグメント別	売上高			営業利益			
	2025年度 実績	2026年度 予想 (8/6発表)	前年差	2025年度 実績	2026年度 予想 (8/6発表)	前年差	2025年度 実績 (※)
メディア・コンテンツ	312,237	**313,000**	+762	14,612	**9,000**	▲5,612	11,567
ライフスタイル	95,724	**105,000**	+9,275	2,866	**3,900**	+1,033	2,866
不動産・その他	16,888	**17,000**	+111	7,271	**10,100**	+2,828	10,316
調整額	-	**-**	-	▲0	**-**	+0	▲0
連結	424,850	**435,000**	+10,149	24,750	**23,000**	▲1,750	24,750

※セグメント別の2025年度実績を、TBS放送センターを移管したと仮定して算出（推定値）。

2026年度　TBSテレビ業績予想　修正なし（内訳は一部変更）

TBS

TBSテレビ業績予想は、2026年8月6日発表の業績予想修正より変更なし。なお、内訳は一部変更。

単位：百万円

TBSテレビ	2025年度 実績	2026年度 予想 (8/6発表)	前年差
売上高	246,259	**248,700**	+2,440
営業利益	16,820	**12,000**	▲4,820
経常利益	18,912	**14,000**	▲4,912
当期純利益	39,966	**13,300**	▲26,666

※2026年度予想については、TBS放送センター移管影響を織り込んだ数値。

単位：百万円

	2025年度 実績	前回予想 (8/6発表)	今回予想	前回予想 からの増減
タイム	88,650	85,800	**85,800**	-
スポット	87,413	82,700	**80,000**	▲2,700
番組原価	100,326	95,500	**95,000**	▲500
			配信部門 粗利益	+1,600

2026年度　中間期決算ハイライト

2026年度　業績見通し

▶経営計画の進捗

その他トピックス

参考資料

キャピタル・アロケーションの進捗

2027年度からROIC経営をさらに推進するうえで、2026年度は「B/S右側の整理に着手するフェーズ」と位置づけ、
見直しを行ったキャピタル・アロケーションを着実に実施。

キャッシュ·イン

1

次期中計からのセグメント別ROIC経営を見据え、WACCを適切に管理するために、**セグメント毎の投下資本の見直しに着手。**
赤坂二・六丁目地区開発計画における資金調達を全面的に見直し、
負債調達を440億円から、840億円に拡大。

2

中計2026期間中、拡大した**売却規模は1,350億円に。**
(これまでの累計売却額は1,096億円)
引き続き、**成長投資の進捗によって機動的に対応。**

3

成長投資リターンによる営業キャッシュ・フロー拡大に取り組むも、政策保有株式の売却増による税負担増や、売上規模拡大に伴う一時的な運転資本の増加等により、計画を下方修正し、610億円へ。

中計2026(計画) **今後の想定**



キャッシュ配分

4

コンテンツIPの獲得・拡大に向けた投資
(株)U-NEXT HOLDINGS(資本業務提携)
(株)SAND B設立
(株)ケイコンテンツ子会社化
(株)ゼノトゥーン子会社化
(株)WACUL子会社化
グローバルビジネス元年の推進
Legendary Entertainmentへの出資
(株)StudioMonowa設立
ライフスタイル事業の拡大
(株)スタイリングライフ・ホールディングス
完全子会社化
EduTainmentの事業開発／拡大 等
合計**1,000億円**の成長投資を実施済み

5

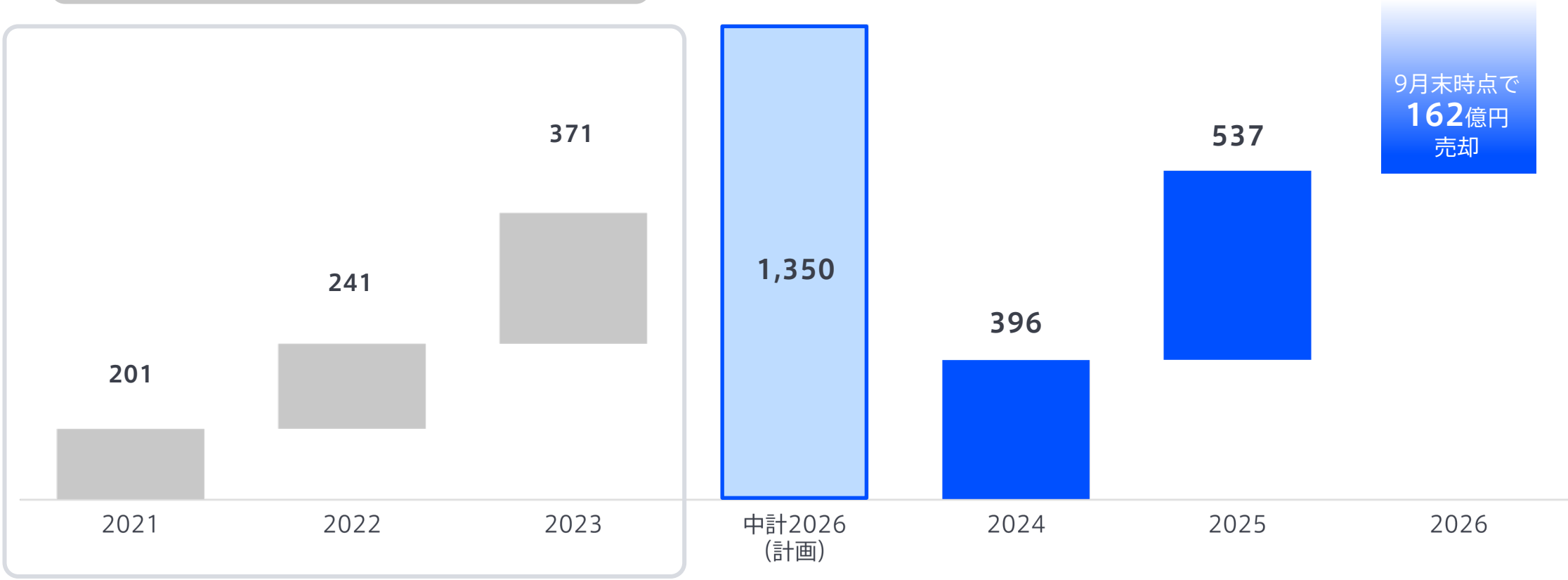
企業価値の向上を通じた株主還元に積極的に取り組み、2025年度は中計2026の計画の一部を前倒しで達成したことも踏まえ、
還元規模を拡大し、３年間総額で1,050億円へ。

政策保有株式売却

単位：億円

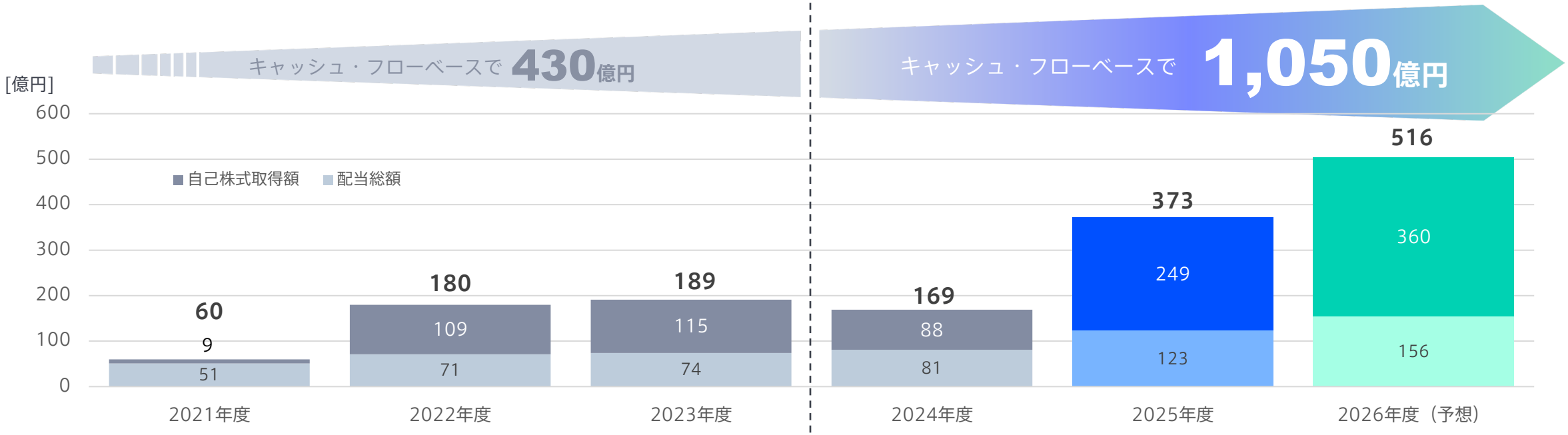
中計2023期間中は **814億円**分売却

中計2026期間累計で
既に**1,096億**円売却



株主還元

- ROIC経営推進にあたって投下資本及び資本コストの管理に取り組む必要があること、並びに、
  コンテンツIP等への成長投資については、営業キャッシュ・フロー拡大の連鎖を生み出すまでに一定の時間を要する性質もあることも踏まえ、
  成長投資と株主還元を適切なバランスにより推進し、規律的な自己資本のコントロールに取り組む。
- 従来の配当方針は維持しつつも、キャピタル・アロケーションの見直しを踏まえ、当初計画より450億円（昨年11月公表値よりも250億円）拡大。
  より積極的な株主還元を通じて、当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益を確保し、向上させる。



一株当たり

20年度期末	**15円/株**	21年度期末	**22円/株**	22年度期末	**22円/株**	23年度期末	**22円/株**	24年度期末	**41円/株**	25年度期末	**49円/株**
21年度中間	**15円/株**	22年度中間	**20円/株**	23年度中間	**22円/株**	24年度中間	**27円/株**	25年度中間	**35円/株**	26年度中間	**50円/株**

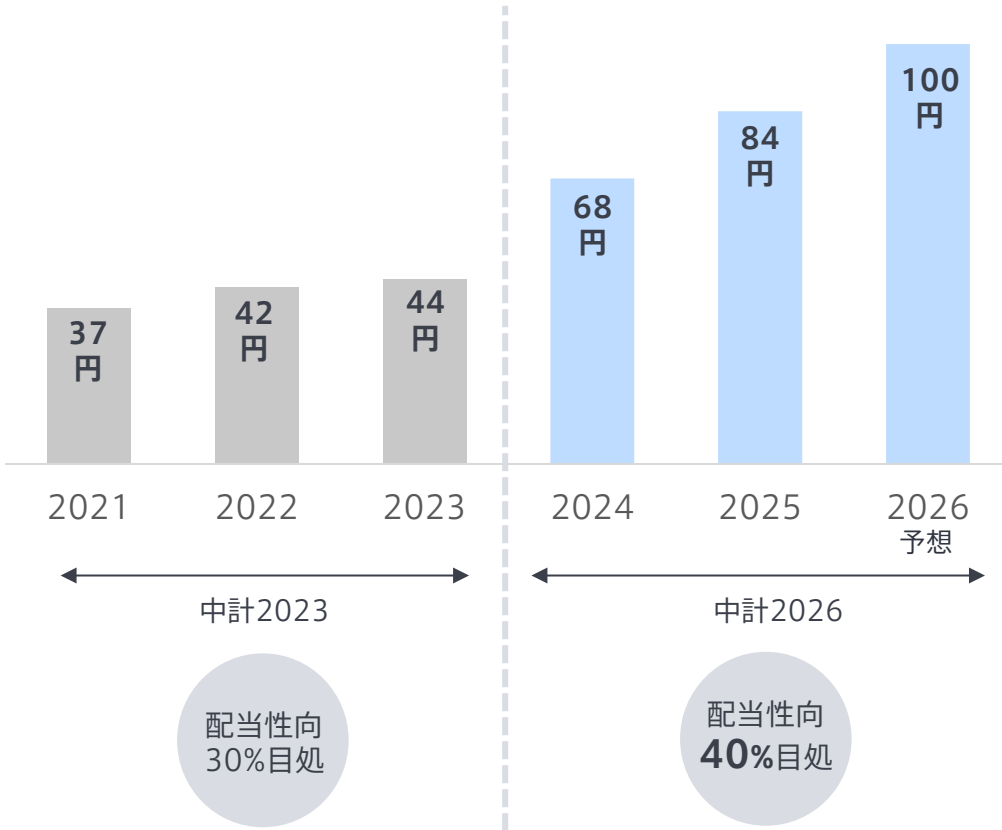
株主還元方針と年間配当予想

基本方針　連結ベースの配当性向**40%**を目処として、安定的かつ継続的に配当を実施するとともに、**総還元性向**を意識したうえで、自己株式の取得も機動的に実施します。

2026年5月14日発表の配当予想より変更なし。
2026年度は、中間配当金50円、期末配当金50円、年間配当金100円の予想。

	1株当たり配当金（円）			配当性向（%）	特殊な要因（※）の影響を除いた配当性向（%）
	中間	期末	年間		
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度	20	22	42	20.1	30.3
2023年度	22	22	44	18.9	34.4
2024年度	27	41	68	24.9	38.9
2025年度	35	49	84	25.3	43.1
2026年度（予想）	**50**	**50**	**100**	**31.6**	**40%目処**

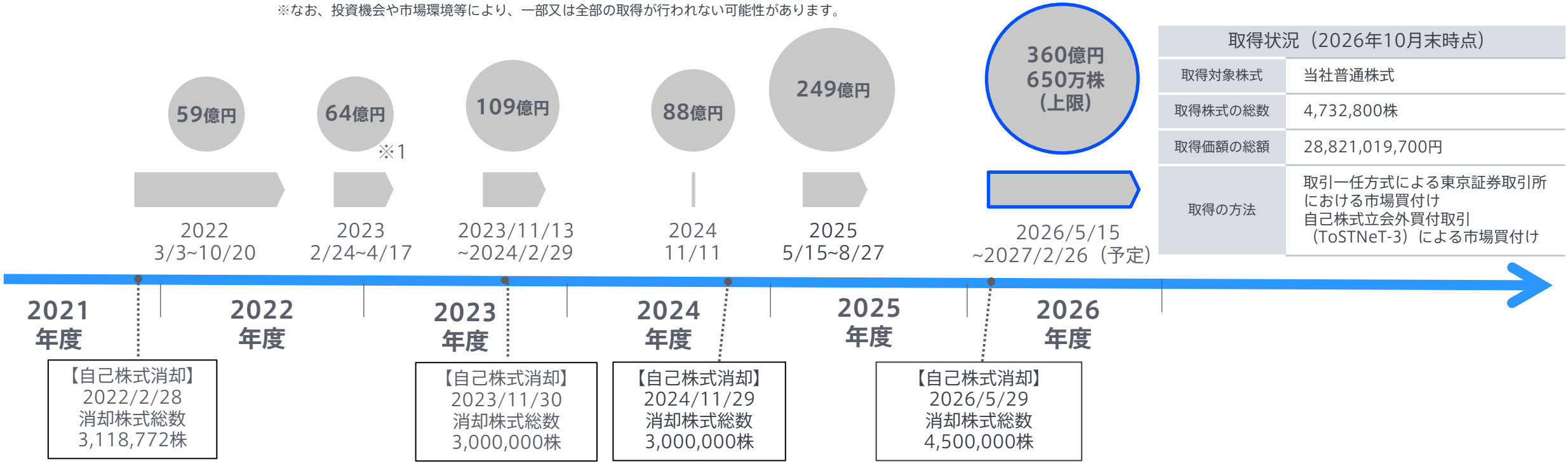
※成長投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益等を、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付ける。



自己株式取得

自己株式の取得に関する決議内容（2026年５月14日発表）	
取得対象株式	当社普通株式
取得株式の総数	6,500,000株（上限）
取得価額の総額	36,000,000,000円（上限）
取得の方法	（1）取引一任方式による東京証券取引所における市場買付け （2）自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による市場買付け
取得期間	2026年5月15日～2027年2月26日

※なお、投資機会や市場環境等により、一部又は全部の取得が行われない可能性があります。



取得状況（2026年10月末時点）	
取得対象株式	当社普通株式
取得株式の総数	4,732,800株
取得価額の総額	28,821,019,700円
取得の方法	取引一任方式による東京証券取引所における市場買付け 自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による市場買付け

※1 当社が資金を拠出し、株式付与ESOP信託が所有する株式

次期中期経営計画に向けた展望

TBS

開示予定

2027年5月

「VISION2030」で掲げたEDGE戦略
の成長に対する道筋を示す。

EDGE戦略のさらなる加速

- 引き続き、積極的な成長投資に取り組みつつ、IP・グローバル・エデュテインメント等の領域で成長の道筋を
- 成長投資を起点とした営業キャッシュ・フロー創出へ

資本効率を意識した経営

- 事業別ROICの導入と投下資本管理
- ROIC経営に向けた事業ポートフォリオの再定義

規律ある資本コントロール

- WACC低減を見据えた筋肉質なB/Sの構築へ
- 成長に必要な資本を見極めたうえで、
自己資本の適正水準を再定義し、株主還元方針を検討

2026年度　中間期決算ハイライト

2026年度　業績見通し

経営計画の進捗

▶その他トピックス

参考資料

成長戦略の進捗

グローバル

THE SEVEN

「俺のこと、なんか言ってた？」
2026年10月22日
Netflix配信



「国民クイズ」
2026年12月17日
Netflix配信



「地雷グリコ」
2026年11月13日
Prime Video配信



©2026 Amazon Content Services LLC or its Affiliates.

強力な世界配信作品が次々とローンチ





THESEVEN LEGENDARY

StudioMonowa

グローバルでのコンテンツIP開発・製作体制の
確立に向けた協業体制が順調に推移

コンテンツIP

SAND B

XENOTOON

Kcon Tents

コンテンツIPの獲得・展開を強化する
SAND Bで複数のIP獲得を実施

XENOTOON

Seven Arcs

2027年度中を目途に、
ゼノトゥーンとSeven Arcs
の経営統合を検討
「IP創出エンジン」へ進化

エデュテインメント

AI for School

e6project





実社会に紐づく学びによる学習意欲の向上や
主体的・対話的で深い学びを実現するためのEduTainment事業を推進

メディア環境・アジア大会

単位：百万円
(※[ ]内は1段目が前年同期差、2段目が前年同期比)

TBSテレビ	2025年度 中間期	2026年度 中間期
放送収入	87,397 [+9,580] [+12.3%]	79,055 [▲8,342] [▲9.5%]
タイム	46,086 [+6,084] [+15.2%]	43,481 [▲2,605] [▲5.7%]
スポット	41,310 [+3,495] [+9.2%]	35,574 [▲5,736] [▲13.9%]
配信広告収入	6,322 [+1,958] [+44.9%]	6,381 [+59] [+0.9%]

アジア大会 愛知・名古屋
東京2025世界陸上の熱を引き継ぎ、社会現象に



放送期間：2026年9月16日～10月4日

LTV4-59	G帯 4.2% P帯 4.0%
ALL	G帯 6.4% P帯 6.0%
TVer	Special Live配信 累計再生数 905万回
視聴人数	東京2025世界陸上の7,977万人を超える 8,393万人

1年を通じて大会認知獲得を目指し、多角的なプロモーションを展開。
大会認知度は25年12月の33.0%から、大会直前には59.9%となった。



SNSプロモーション/イベント施策



番宣/アンバサダー戦略

LTV4-59の成果とタイムレスバリュー

TBS

LTV4-59 上半期視聴率	全　日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	1.8 【0.0】	3.9 【+0.1】↑	3.7 【+0.1】↑	1.3 【0.0】
PUT	10.1 【▲0.1】↓	18.7 【▲0.2】↓	17.6 【▲0.3】↓	8.0 【0.0】

(2026/3/30～2026/9/27 ：週ベース)

(※ 【 】内は前年差　単位：%)

LTV4-59　好調要因

- 堅調な既存レギュラー番組
- 4月スタートの新番組の定着
- アジア大会の貢献
- 日曜劇場「VIVANT」の高視聴率　等

配信

TVer **第2四半期：圧倒的な記録で三冠達成**

総再生回数	約**3億5,732万**回（+41.8%）
ＵＢ数	約**2,929万**UB（+30.2%）
総再生時間	約**1億5,189万**時間（+32.3%）

※（　）内は前年差

- 堅調なバラエティ番組に加え、7月期ドラマの「VIVANT」（第2シーズン 11-18話）、「Tシャツが乾くまで」が総再生回数を大幅に牽引
- ドラマ本編と連動したTVerオリジナルコンテンツ（「VIVANT-Adventure Log-」や、「Tシャツが乾くまで」のサイドストーリー等）が、相乗効果を生み好調に推移
- 「アジア大会 愛知・名古屋」のライブ配信・ハイライト動画も幅広いユーザー層の視聴等に貢献

※再生数　TVer+TBS FREE

「VIVANT」(第2シーズン11-18話) 再生数平均741万回

「Tシャツが乾くまで」 再生数平均396万回

TVerにて配信された全てのドラマの中で、記録的なクール平均再生数を達成

参考：TBS歴代ドラマ　クール平均再生数

1位	VIVANT（26年7月期）※第2シーズン 11-18話	741万回
2位	じゃあ、あんたが作ってみろよ（25年10月期）	470万回
3位	Tシャツが乾くまで（26年7月期）	396万回
4位	リブート（26年1月期）	392万回
5位	VIVANT（23年7月期）※第1シーズン	363万回

※初回配信日＋７日間＜計８日間＞の再生数

U-NEXT 課金ユーザー数 **540万**人

出典：株式会社U-NEXT HOLDINGS 2026年8月期 通期決算説明資料

- 「アジア大会 愛知・名古屋」最大7チャンネルで複数競技を同時生配信
- 「VIVANT」（第2シーズン）を独占見放題配信
  公式サイドストーリー「チンギス―VIVANT THE ORIGIN STORY―」、「ドラム―VIVANT THE ORIGIN STORY―」も好評

イベント

「ラヴィット！ロック2026」



「クレイジージャーニーライブ2026夏」



「CDTVライブ！ライブ！秋の大感謝祭2026」



日曜劇場「VIVANT」コンテンツIPレバレッジ

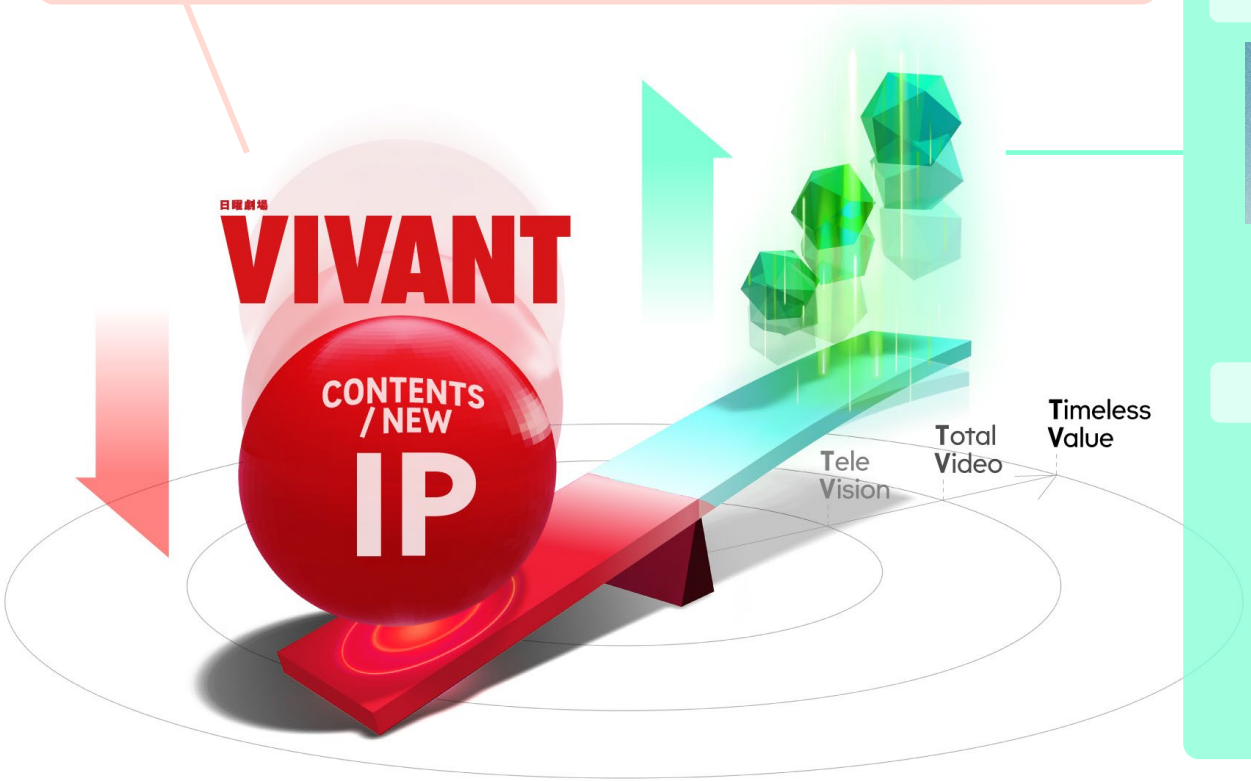
TBS

日曜劇場 VIVANT

地上波放送

LTV4-59	初回10.9%（平均9.3%）
ALL	初回12.1%（平均10.4%）
視聴人数	4,371万人

※11-18話



配信

TVer

- 再生回数 初回875万回 歴代の全局ドラマでトップ
- VIVANT-Adventure Log-で舞台裏を配信

U-NEXT





- U-NEXT独占見放題配信
- サイドストーリーを制作受託

ラジオ



VIVANT悪役会議室
TVer特別版やイベントも展開

イベント



VIVANT IMMERSIVE MISSION
総販売枚数15万枚突破



VIVANT PREMIUM SUMMER PARTY
リアル・配信で3万人以上動員

商品化



他番組・企業とのコラボプロモーション

TBS他番組のみならず、関連企業や地方自治体など幅広くコラボプロモーションを実施し、新たな価値創出をより推進。





アニメ事業

地上波レギュラー枠

幹 はTBSテレビ幹事作品



「アオのハコ Season2」
(10月 日曜ごご4:30)

©三浦糀／集英社・
「アオのハコ」製作委員会

幹



「氷の城壁」
(10月 木曜よる11:56)

©阿賀沢紅茶／集英社・
TVアニメ「氷の城壁」製作委員会

(第2期)

幹



「氷剣の魔術師が
世界を統べるII」
(10月 木曜深夜1:28)

©御子柴奈々・講談社／
「氷剣の魔術師が世界を統べるII」
製作委員会

SOON-TO-BE-ANNOUNCED

幹



「カリスマ」
(1月 木曜よる11:56)

© CHARISMA ANIME

SOON-TO-BE-ANNOUNCED

映画『タコピーの原罪 -ありがとう、また明日-』11月公開

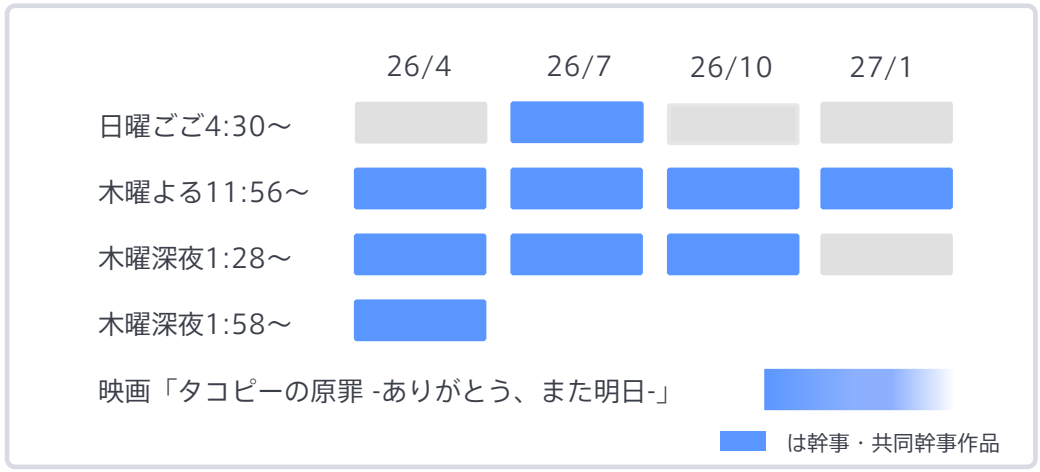


配信限定シリーズ「タコピーの原罪」は、「Filmarks Awards 2025」アニメ部門最優秀賞を受賞したほか、2026年6月には世界最大規模のアニメーション映画祭「アヌシー国際アニメーション映画祭」のTVシリーズ部門で審査員賞を受賞。
国内外で話題となった本作を映画化。
全6話を劇場用に再編集、新たなシーンも追加し、2026年11月に公開。

©タイザン5／集英社・「タコピーの原罪」製作委員会

TBSテレビ幹事作品数*の推移

*共同幹事作品含む



映画・興行・催事　今後のラインアップ

TBS

2026年11月6日　現在

	期間	タイトル	備考
映画	2026/11/27公開	映画『タコピーの原罪 -ありがとう、また明日-』	配給：クロックワークス、TBSテレビ
	2027/1/8公開	「映画　九条の大罪」	配給：東宝
	2027/1/22公開	GRIT 2（仮題）　2026年度バレーボール男子日本代表ドキュメンタリー	配給：日活
	2027/4/29公開	「沖縄コンフィデンシャル」	配給：東映
	2027年秋公開	「母の待つ里」	配給：東宝
興行	2022/7/8~2026/12/27	舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」	TBS赤坂ACTシアター
	2026/11/21~11/23	スジナシシアターVol.19 in 日本青年館ホール	日本青年館ホール
	2026/11/22~11/23,12/19~12/27	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Winter Tour 2026「くるみ割り人形」	Bunkamura オーチャードホール　ほか
	2027/1/6,1/29,2/6	キングオブコント2026LIVE	LINE CUBE SHIBUYA　ほか
	2027/1/15,26,27	日曜劇場「VIVANT」オーケストラコンサート	東京国際フォーラムホールA　ほか
	2027/1/28~3/14	MJ ザ・マイケル・ジャクソン・ミュージカル	東急シアターオーブ
	2027/2/23~3/10	ミュージカル「9 to 5」	日本青年館ホール
	2027年3月	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring 2027「海賊」	TBS赤坂ACTシアター
	2027/4/7~4/8	井上芳雄 by MYSELF 10周年コンサート「by MYBEST」	TOYOTA ARENA TOKYO
	2027年4月~5月	ミュージカル「メアリ・シェリー」	TBS赤坂ACTシアター
催事	2026/9/16~11/27	VIVANT IMMERSIVE MISSION	CREATIVE MUSEUM TOKYO
	2026/11/13~2027/1/11	代々木フォレスト・オブ・ライツ～ 光の森～	東京・代々木公園（サイクリングコースエリア）

赤坂エンタテインメント・シティ

TBS

赤坂エンタテインメント・シティ　エリア全体マップ

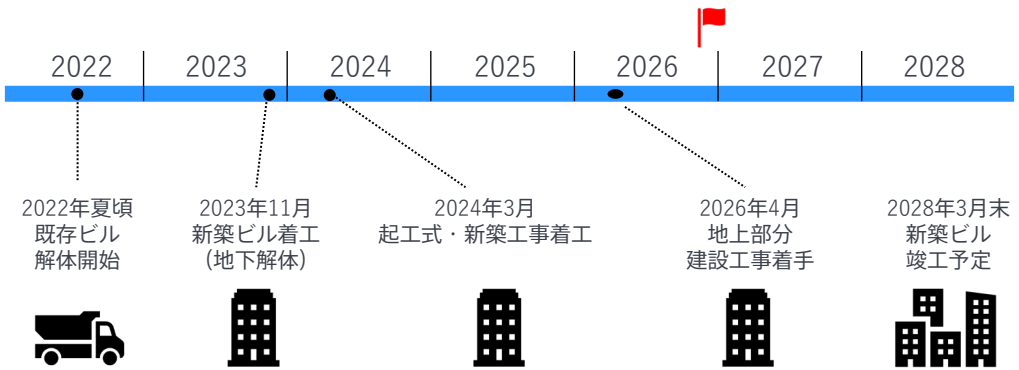






工事中の再開発エリア（左が東棟・右が西棟）
2026年10月中旬撮影

再開発エリアの工事スケジュール



スタイリングライフグループ

TBS

PLAZA TOKYO+ 60周年を迎えた新たなPLAZA 「PLAZA TOKYO+ 新宿店」が2026年11月20日、新宿マルイ 本館にオープン！

60周年を機にオープンする「PLAZA TOKYO+ 新宿店」は、クリエイティブデザイン、ストア監修に世界で活躍する日本人POPアーティスト「Fantasista Utamaro」氏を迎え、世界中の人が集まる広場をイメージし、国内外のモノ・トレンド・体験が交差する空間を創出。

話題のポップアップやカフェの限定メニュー、旬なコラボレーションを通して、世界の「今」をリアルタイムに発信し、世界中の人が集まる広場としてTOKYOの新しい目的地になることをめざします。



店内イメージ



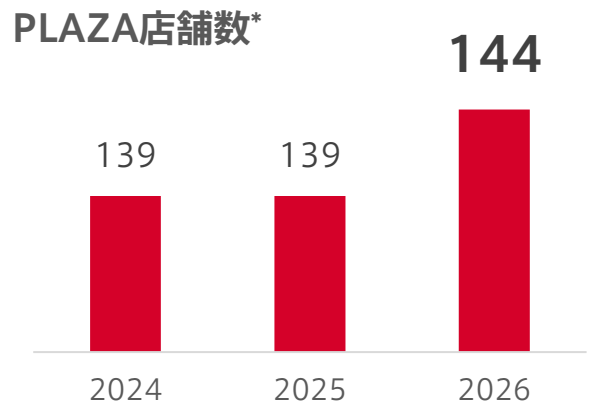
Fantasista Utamaro 氏について

ビジュアルアーティスト／クリエイティブディレクター／アートディレクター／アニメーションディレクター。
日本のポップカルチャーを、自らの創作を通じて世界へ届ける意志を軸に、活動を続けている。アート、デザイン、ファッション、映像と、領域の境界を越えて拡張を続け、その表現は国境もジャンルも越え、数々のコラボレーションを生み出してきた。

PLAZA

あなたの街にPLAZAがやってくる！

- PLAZA youme town TAKAMATSU OPEN 2026.10.9 FRI.
- PLAZA AEON MALL TSUCHIURA OPEN 2026.10.30 FRI.
- PLAZA AEON MALL TOKUSHIMA OPEN 2026.11.6 FRI.
- PLAZA AEON MALL DATE OPEN 2026.11.27 FRI.



*2024・2025は期末時点
2026は中間期末時点

やる気スイッチグループ

教室数および生徒数推移

教室数推移

2025年８月末時点	2026年８月末時点
2,467 校	2,384 校

生徒数推移

2025年８月末時点	2026年８月末時点
138,895 名	137,557 名

直近の主な取り組み



◀ Bebefinn Animals ワークブック 全国発売中

やる気スイッチグループの企画協力・監修による英語×知育本「Bebefinn Animals ワークブック」が6月26日より全国発売中。
世界的な人気IP「Bebefinn」とTBSの優良コンテンツ「どうぶつ奇想天外」を掛け合わせることで、「エデュテインメント事業」の更なる拡大を目指す。

▼ JNN系列局のFCオーナー化について

テレビユー福島、チューリップテレビ、大分放送、IBC岩手放送のグループ会社は忍者ナイン、テレビ高知のグループ会社はスクールIEを開校している。テレビ局として長年培ってきた情報発信力や地域ネットワークを活かし、地域の子どもたちに質の高い学びと安心できる環境を提供している。



新規開校状況（2026年３月～）

2027年２月期 累計開校件数

【全社】 28 校・ラボ・園・拠点

スクールIE

2027年２月期 累計開校件数
3 校 開校 ※2

3月開校
■FC 松山北校(愛媛)
■FC 久米校(愛媛)
■FC 津田校(愛媛)

チャイルドアイズ

2027年２月期 累計開校件数
1 校 開校

7月開校
■FC 所沢ファルマン通り校(埼玉)

WinBe / We Act!

2027年２月期 累計開校件数
2 校 開校 ※3

3月開校
■直営 聖路加タワー(東京)
■直営 白金高輪(東京)

忍者ナイン

2027年２月期 累計開校件数
13 ラボ 開校

6月開校
■FC 三豊ラボ(香川) etc.

7月開校
■FC 鞍馬口ラボ(京都)

8月開校
■FC 明石西新町ラボ(兵庫)

Kids Duo International

2027年２月期 累計開園件数
1 園 開園

4月開園
■直営 アカデメイア 御成門(東京)

HALLO

2027年２月期 累計開校件数
8 拠点 開講 ※4

3月開校
■YPFC ネッツトヨタ福島 福島丸子校(福島)
■YPFC 寺小屋グループ 今治中央(愛媛) etc.

4月開校
■YPFC LEC水道橋校(東京)
■YPFC ハクジュプラザそよら湘南 茅ヶ崎店校(神奈川) etc.

※2　海外教室除く
※3　『WeAct!』及び『Kids Duo advanced』は幼児英会話教室ブランドの『WinBe』内でカウント
※4　プログラミング教室『HALLO』の開校件数は㈱YPスイッチの直営及びFC(他塾展開)の開講数のみをカウント

2026年度　中間期決算ハイライト

2026年度　業績見通し

経営計画の進捗

その他トピックス

▶参考資料

設備投資と減価償却費

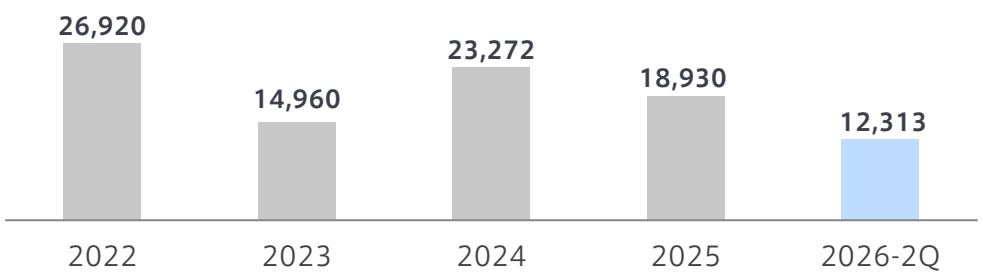
連結	2026年度 中間期	前年差
設備投資	12,313	+4,811
減価償却費	7,328	▲9

単位: 百万円

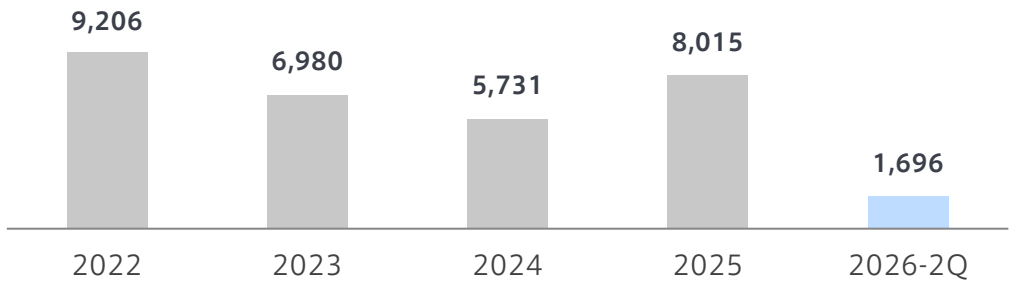
TBSテレビ	2026年度 中間期	前年差
設備投資	1,696	▲1,938
減価償却費	2,311	▲1,330

単位: 百万円

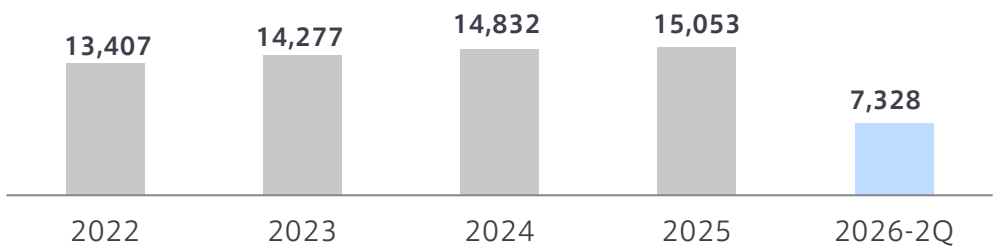
連結設備投資



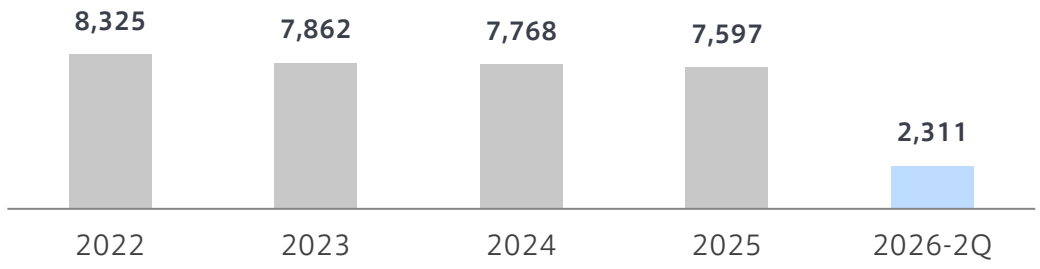
TBSテレビ設備投資



連結減価償却費



TBSテレビ減価償却費



連結貸借対照表

単位:
百万円

	2026年3月末	2026年9月末	比較		2026年3月末	2026年9月末	比較
流動資産	270,188	**198,489**	▲71,698	流動負債	111,216	**99,516**	▲11,699
				固定負債	381,613	**544,390**	+162,776
				負債合計	492,830	**643,907**	+151,076
固定資産	1,358,032	**1,907,180**	+549,148	自己資本	1,127,718	**1,453,230**	+325,512
				非支配株主持分	7,672	**8,532**	+860
				純資産合計	1,135,390	**1,461,763**	+326,372
資産合計	1,628,220	**2,105,670**	+477,449	**負債純資産合計**	1,628,220	**2,105,670**	+477,449

中間期末有利子負債残高　787億円　（前期末比　+50億円）

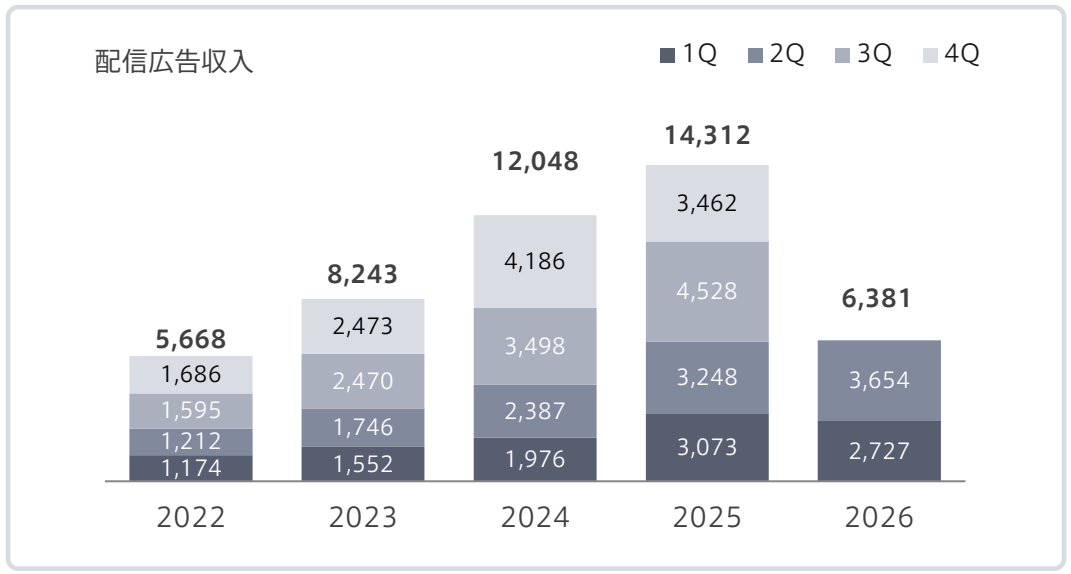
※ リース債務は除く

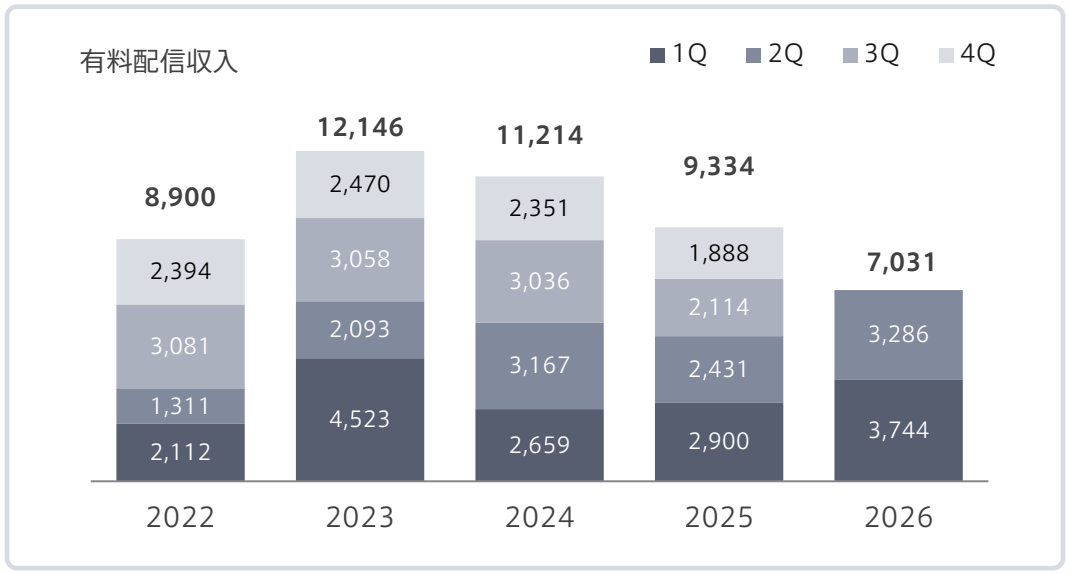
連結キャッシュ・フロー計算書

単位:
百万円

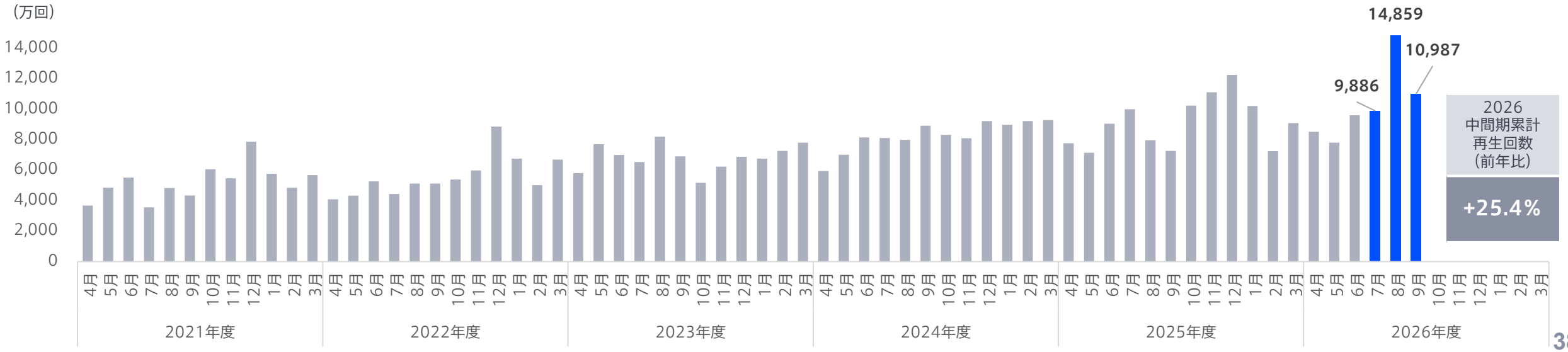
	2025年度 中間期	**2026年度 中間期**	前年差
営業活動によるキャッシュ・フロー	946	**1,385**	+438
投資活動によるキャッシュ・フロー	41,470	**▲45,760**	▲87,230
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲31,654	**▲31,152**	+501
現金及び現金同等物の増減額等	10,573	**▲74,343**	▲84,917
現金及び現金同等物の期首残高	74,577	**123,897**	+49,320
現金及び現金同等物の期末残高	85,151	**49,554**	▲35,596

配信収入経年推移とTVer・TBS FREE 再生回数





TVer・TBS FREE 再生回数 ※2023年3月末まではGYAO!を含む



LTV4-59視聴率(4-59歳)・ALL視聴率

TBS

LTV4-59

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	**②1.8 【0.0】**	**②3.9 【+0.1】**	**②3.7 【+0.1】**	**③1.3 【0.0】**
日本テレビ	①2.6 【0.0】	①4.4 【▲0.2】	①4.1 【▲0.1】	①2.2 【0.0】
テレビ朝日	④1.4 【0.0】	④2.4 【0.0】	③2.6 【+0.1】	④1.1 【0.0】
テレビ東京	⑥0.5 【0.0】	⑥1.4 【▲0.1】	⑥1.3 【0.0】	⑥0.3 【0.0】
フジテレビ	③1.7 【+0.1】	③2.7 【▲0.2】	③2.6 【▲0.2】	②1.4 【+0.1】
NHK	⑤0.9 【0.0】	⑤2.0 【+0.1】	⑤1.8 【+0.1】	⑤0.7 【0.0】
PUT	10.1 【▲0.1】	18.7 【▲0.2】	17.6 【▲0.3】	8.0 【0.0】

ALL

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	**④2.6 【▲0.1】**	**④4.3 【▲0.2】**	**④4.2 【▲0.1】**	**④2.2 【▲0.1】**
日本テレビ	①3.3 【+0.1】	①5.0 【0.0】	②4.6 【0.0】	①2.9 【+0.1】
テレビ朝日	①3.3 【0.0】	①5.0 【+0.2】	①5.1 【+0.2】	②2.8 【▲0.1】
テレビ東京	⑥1.1 【0.0】	⑥2.8 【0.0】	⑥2.4 【0.0】	⑥0.7 【0.0】
フジテレビ	⑤2.0 【0.0】	⑤3.0 【▲0.4】	⑤2.9 【▲0.4】	⑤1.7 【0.0】
NHK	③2.8 【0.0】	①5.0 【+0.2】	③4.3 【+0.2】	③2.4 【0.0】
PUT	17.9 【▲0.2】	29.3 【▲0.5】	27.3 【▲0.4】	15.3 【▲0.1】

※【 】内は前年差　単位：%、2026/3/30～2026/9/27 ：週ベース、ビデオリサーチ調べ：関東地区

タイム・スポット収入対前年比

TBS

単位：百万円

	タイム			スポット				備考
	2026年度	前年差	増減率	2026年度	前年差	増減率	地区投下（推計）	
4月	7,250	▲104	▲1.4%	6,815	▲705	▲9.4%	+4.5%	
5月	6,474	▲91	▲1.4%	6,940	▲604	▲8.0%	+4.6%	
6月	5,982	▲408	▲6.4%	5,931	▲1,351	▲18.6%	▲5.3%	
7月	**7,273**	+121	+1.7%	**5,851**	▲1,683	▲22.3%	▲15.2%	
8月	**6,536**	▲44	▲0.7%	**5,365**	▲1,044	▲16.3%	▲16.5%	
9月	**9,962**	▲2,077	▲17.3%	**4,669**	▲345	▲6.9%	▲14.9%	タイムは、大型スポーツ単発の規模差により減収。
10月								
11月								
12月								
1月								
2月								
3月								
1Q	19,707	▲605	▲3.0%	19,687	▲2,662	▲11.9%	+1.3%	
2Q	**23,773**	▲2,000	▲7.8%	**15,886**	▲3,073	▲16.2%	▲15.5%	
3Q								
4Q								
通期	**43,481**	▲2,605	▲5.7%	**35,574**	▲5,736	▲13.9%	▲7.1%	

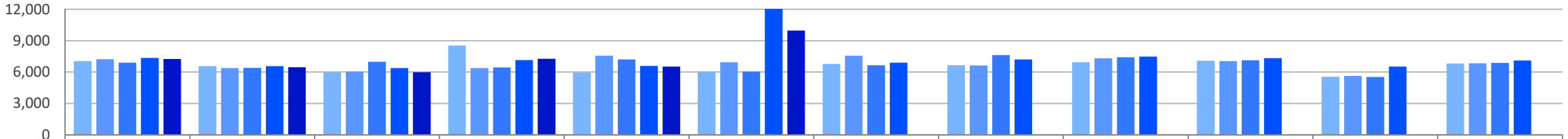
スポット5局シェア（推計）四半期推移

2022年度　20.6%（累計）				2023年度　20.5%（累計）				2024年度　21.5%（累計）				2025年度　22.1%（累計）				2026年度　21.3%（累計）			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
21.2	20.6	20.9	19.6	20.9	20.6	20.2	20.1	20.8	21.4	20.9	23.2	25.0	20.9	21.7	21.0	21.7	**20.7**		

タイム・スポット収入　経年推移

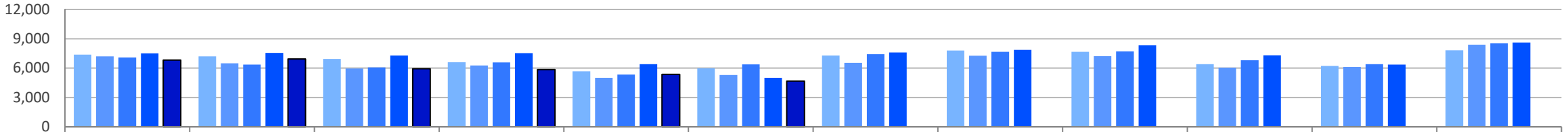
タイム収入

単位：百万円



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	7,036	6,560	5,968	8,541	5,953	6,048	6,776	6,646	6,939	7,080	5,552	6,810
2023年度	7,229	6,380	6,055	6,388	7,563	6,941	7,559	6,621	7,314	7,047	5,640	6,848
2024年度	6,890	6,408	6,988	6,439	7,219	6,055	6,661	7,634	7,421	7,130	5,538	6,876
2025年度	7,355	6,566	6,391	7,151	6,581	12,040	6,906	7,207	7,479	7,337	6,527	7,105
2026年度	7,250	6,474	5,982	7,273	6,536	9,962						

スポット収入



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	7,380	7,200	6,927	6,596	5,669	5,991	7,282	7,808	7,660	6,406	6,224	7,819
2023年度	7,201	6,488	5,951	6,270	5,004	5,289	6,526	7,260	7,218	6,042	6,120	8,403
2024年度	7,100	6,350	6,061	6,572	5,339	6,391	7,430	7,659	7,713	6,796	6,409	8,531
2025年度	7,521	7,545	7,283	7,534	6,410	5,015	7,609	7,874	8,340	7,301	6,356	8,619
2026年度	6,815	6,940	5,931	5,851	5,365	4,669						

業種別スポット売上順位

単位：%

	2025年度　中間期	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	▲4.3	13.7
2	酒・飲料	+3.1	11.4
3	食品	+14.8	9.2
4	外食・サービス	+23.5	9.1
5	医薬品	+14.2	6.6
6	化粧品・トイレタリー	+5.7	6.2
7	交通・レジャー	+1.8	6.1
8	金融	+11.4	5.1
9	自動車・輸送機器	+21.0	5.0
10	流通	+58.5	4.0

※ 順位は金額順

単位：%

	2026年度　中間期	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	+5.7	16.8
2	外食・サービス	▲10.5	9.4
3	酒・飲料	▲31.9	9.0
4	食品	▲22.7	8.2
5	自動車・輸送機器	+3.4	6.0
6	金融	+0.3	5.9
7	化粧品・トイレタリー	▲25.4	5.4
8	医薬品	▲32.4	5.2
9	交通・レジャー	▲28.2	5.1
10	エンターテインメント・趣味	▲5.1	4.3

※ 順位は金額順

連結会社一覧

※ 2026年9月末現在

TBS

メディア・コンテンツ/ 不動産・その他 (1社)

(株) TBSテレビ

メディア・コンテンツ(21社)

(株) TBSラジオ
(株) BS-TBS
(株) TBSスパークル
(株) TBSグロウディア
(株) TBSアクト
(株) CS-TBS
(株) 日音
(株) TBSメディア総合研究所
TCエンタテインメント (株)
(株) Seven Arcs
(株) マンガボックス
(株) THE SEVEN
(株) SAND B
(株) ケイコンテンツ
(株) ゼノトゥーン
(株) ＷＡＣＵＬ
(株)100
TOKYO BROADCASTING SYSTEM INTERNATIONAL, INC.
Bellon Entertainment Inc.
THE SEVEN US, INC.
TOKYO BROADCASTING SYSTEM KOREA, INC.

ライフスタイル(8社)

(株) スタイリングライフ・ホールディングス
(株) CPコスメティクス
(株) ビコーズ
(株) やる気スイッチグループホールディングス
(株) やる気スイッチグループ
(株) やる気スイッチキャリア
(株) YPスイッチ
(株) 寺小屋グループ

不動産・その他(5社)

(株) TBS企画
(株) 緑山スタジオ・シティ
赤坂熱供給 (株)
(株) TBSサンワーク
(株) TBSヘクサ

持分法適用(7社)

(株) WOWOW
(株) リトプラ
(株) U-NEXT
(株) StudioMonowa
(株) YGC
(株) サンリオやる気エデュテイリング
台灣拓人教育事業股份有限公司